



6月の花：くちなしの花

事務所便り

令和5年6月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘
重村行政労務管理事務所
ご連絡先：〒235-0021
：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102
電話・FAX：045-754-3412 携帯:070-5542-1466
E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

●ウクライナの反攻は何時・どこで？

5月が終り、6月に入ろうとしているが、世界の注目はウクライナの反攻の開始であろう。

- When「いつ(時間)」…近時か？
- Where「どこで(場所)」…東部、中部、西部、？
- Who「だれが(主体)」…ウクライナが
- What「なにを(目的・人・モノ)」…ロシア軍の撃破
- Why「なぜ(理由)」…国土の回復
- How「どのように(手段・方法)」…あらゆる手段で

1H5Wで考えると「いつ」、「どこで」が不明である。

「When」については、反攻作戦のために新編された12個旅団がすでに展開し、配置についているともいわれている。そして、準備作戦としてロシアの後方施設や兵站施設への攻撃をすでに開始している。本格的攻撃開始は迫っている。

「Where」については攻撃の主軸をどこに指向するか

- (1) ドネツクからマリウポリ方向の東部戦線
- (2) サポリージャからメリトポリ方向の中央戦線
- (3) ヘルソンからクリミア方向の西部戦線

が考えられるが、どの正面に主攻を向けるかは最高の軍事機密であり両軍ともに活発な情報戦、陽動作戦により本当の作戦を秘匿するだろう。

ウクライナ軍には失敗の許されない作戦だ。ロシア軍を分断撃破する東部戦線突破か、中央突破か。

●ウクライナ高官「1週間以内にもロシアに反攻」

ロシアの侵攻を受けるウクライナのダニロフ国家安全保障国防会議書記は、領土奪還に向けたウクライナの反転攻勢について「明日、明後日、または1週間以内にも起こり得る」と明らかにした。英BBC放送が27日に伝えたインタビューで述べた。



ダニロフ氏は、反攻が「失うことのできない歴史的なチャンスだ」と強調し、「(反攻で)ミスをおぼす権利はないことを私たちは理解している」とも語った。反攻が既に始まっているとの見方は否定したという。

一方、英紙ガーディアン(電子版)は27日、ウクライナのポドリャク大統領府長官顧問が「(ロシア側の兵士に対する食料や装備の)供給ラインの破壊やその後方にある倉庫の爆破のような特定のプロセスは既に起こっている」と述べ、**反攻の予備段階が始まっているとの認識を示したと報じた。**

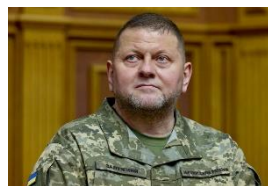
●ウクライナ総司令官「領土取り戻す時」

反転攻勢を宣言か

ウクライナ軍のザルジニー総司令官は27日、通信アプリ「テレグラム」に、「われわれのものを取り戻す時が来た」とのメッセージと共に、ロシア軍との戦闘に臨むウクライナ軍の映像を投稿した。

【地図で見る】ウクライナ戦況マップ

ロシアに占領された領土を奪還するための大規模な反転攻勢の開始を宣言した可能性がある。反転攻勢の時期を巡っては、ウクライナ政府内部や専門家の間でも見解が分かれている。ウクライナのポドリャク大統領府顧問は25日、イタリアの公共放送RAIのインタビューで、大規模な反転攻勢は「既に始まっている」と発言。ただ、軍トップが表明したのは今回が初めてとみられる。約1分間の映像では、部隊指揮官と整列した兵士らが



「断固たる反撃にご加護を」「神聖なる勝利を」などと声を上げ、戦闘に向かう様子が映されている。フェイスブックにも投稿され、「ウクライナ軍に対する国際支援の一環として、侵略者からのウクライナ解放にささげる壮観な動画が公開された」とのメッセージが添えられた。

●ロシア・ベルゴロド州襲撃、ウクライナから侵入した戦闘員は何者なのか

複数の戦闘員が、ウクライナから国境を越えてロシア西部ベルゴロド州に侵入した。クレムリン(ロシア大統領府)はこれらの戦闘員を「破壊工員」と呼び、「対テロ」作戦を発動する事態となった。2日間にわたる戦闘の末、ロシアは反乱軍を包囲して70人以上を殺害し、残りの戦闘員をウクライナ側へ押し戻したと発表した。これらの戦闘員について、ロシアはウクライナの武装勢力だと主張している。



しかしウクライナ政府は、ロシア政府と敵対する2つのロシア準軍事組織に属する戦闘員だとしている。

ウクライナ当局によると、彼らはウクライナ人のための「安全地帯」の設置を目指す、準軍事集団「自由ロシア軍団」と「ロシア義勇軍団(RVC)」に属するロシア人だという。

両集団は過去に、ウクライナの領土防衛に関わる国際部隊(外国人部隊)の一員と称されたことがある。ウクライナ軍情報当局のアンドレイ・ユソフ氏は、両集団は「ロシア領内で自律的に」活動しており、ウクライナ人は関与していないと述べた。

ウクライナのテレビ放送では、民兵と「ロシア人義勇兵」で構成されていると報じられた。

■ロシア義勇軍団(RDK)

今年3月、ウクライナから国境を越えてロシア・ブリャンスク州に侵入した武装集団によって、襲撃事件が起きた。45人が関与したとされるこの襲撃に加わっていたロシア義勇軍団(RDK)は、これを機に注目されるようになった。未確認のロシア側の報告によると、銃撃が起き、死傷者が出たり、人質になった人がいた。一方でRDKは、ロシア人に政府への反抗を呼びかけるために越境したとし、人質をとらずに安全にウクライナ領内に撤退したという。RDKのリーダーは、デニス・カプースチンまたはデニス・ニキーチンの名で知られるロシア人ナショナリスト。

■自由ロシア軍団(FRL)

自由ロシア軍団(FRL)は、ウクライナ部隊とともにロシア軍と戦う、全く異なる組織だ。ロシアの敵対勢力の一部は、FRLが使用する白青白の旗を「自由ロシア」を示す旗とみなしている。RDKリーダーのデニス・ニキーチン氏は、いずれの集団も「プーチン政権を打倒すること」を目指しているが、FRLの戦闘員は中道派を自称する傾向が強いとした。

しかし、FRLは5月22日、ウクライナ国境を越えてベルゴロド州の南西にあるコジンカ村を「解放」と発表。「FRLとRDKは、ベルゴロド州の解放を続けている」と主張した。「またしても、ロシア市民は安全でロシア連邦は強いという神話は破壊された」FRLはその後、モスクワ上空にFRLの旗が付いた気球が上がっている様子の動画を投稿した。FRLの規模は不明だが、「ウクライナ軍との全面的な協力およびウクライナ軍司令部の指導のもと、戦っている」と、同集団のウェブサイトは主張している。



■軍事的重要性は

ウクライナで亡命生活を送る、ロシアの元下院議員で現在はウクライナ国籍のイリヤ・ポナマレフ氏は2022年8月、FRLとRDK、そして国民共和国軍(NRA)が、「ウラジーミル・プーチン大統領の支配からロシアを解放する」という共通の目標に同意する宣言に署名したと、フェイスブックに投稿している。

ロシア軍にとっても、同じロシア人から攻撃を受けることは士気の低下につながる。

ましてやロシア革命における軍の反乱を連想させる動きでもある。

●ロシアによる「毒殺説」浮上 ベラルーシの大統領・ルカシェンコ氏危篤か プーチン氏と「密談」後…モスクワで救急搬送

たびたび「健康不安説」が浮上していた、ロシアの隣国ベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領がモスクワ



で、救急搬送されたとの情報が駆け巡っている。ルカシェンコ氏は、ウラジーミル・プーチン大統領と密室で会談後に急変したため、海外メディアでは、ロシアにとってより従順な指導者にすげかえるための「毒殺説」も浮上している。ベラルーシは、昨年2月に始まったウクライナ侵略で、ロシア軍の進撃拠点の一つとなったものの、ルカシェンコ氏は「挑発」を受けない限り参戦しないと主張した。ロシアとの関係についても「ベラルーシの主権は維持する」としており、

プーチン氏にとってルカシェンコ氏は決して、都合のいいリーダーではなかった。ロシアの特務機関によって毒殺されたとの憶測がある」と伝えた。